**「世田谷区政10年をふりかえる」**

1. **世田谷発・自然エネルギーの「自治体間連携」**

「世田谷エネルギー」と「世田谷区立三浦太陽光発電所」（2014年）

「自然エネルギーの産直→自治体間連携の壁を破る」

・川場村バイオマス発電・長野県県営水力発電の供用開始（2017年）

・青森県弘前市豪雪対応型メガソーラー（2018年）

・新潟県十日町市温泉バイナリー発電（2021年）

｢RE100自然エネルギー100％｣（2019年開始→2020年全施設へ）

1. **被災地支援とグリーンインフラの展開**

「2011年から宮城県南三陸町・気仙沼市への職員派遣」

「まちづくりセンターで『防災塾』、地区防災計画へ」

「2019年10月、台風19号多摩川溢水・内水氾濫」

「土のうステーション52か所（201９年）→７０カ所へ」

「グリーンインフラのイラスト（雨水タンク：５９４基、雨水浸透ます：１３,１０２基）

「うめとぴあ」（本格的グリーンインフラビル2020年竣工）

「東京ドームの2・4倍（112090㎡）の区立公園（現時点６０７か所）

1. **「参加と協働」を掲げる熟議デモクラシー**

「総合支所とまちづくりセンター」

「車座集会を地区まちづくりセンター28か所で3巡」

「『世田谷区基本構想』（2013年）を熟議型で策定。無作為抽出型ワークショップを導入」

「大場区政28年のレガシー（歴史的遺産）としての地域行政制度を活用。

まちづくりセンターを再定義。

「地域行政制度の条例化」（2021年度予定）

「下北沢再開発の住民参加」

1. **28か所まちづくりセンターに「福祉の相談窓口」を設置**

「まちづくりセンター・あんしんすこやかセンター・社会福祉協議会」の三者連携

「認知症とともに生きる希望条例」（2020年）も当事者を真ん中に熟議型。

「うめとぴあ・世田谷区立保健医療福祉総合プラザ」（2020年）

「特別養護老人ホーム等１０年間で計125ヶ所、3,781人分を開設」

「障害者施設（生活介護、グループホームなど）10年で42施設を整備

「ヘレン経堂」（2017年）「医療的ケア相談支援センター」（2021年）

1. **「子ども・子育て応援都市宣言」（2015年3月）**

「待機児童（国基準）の解消」（2020年）に至る保育園整備。

　→２０２０年４月、８０２人の保育定員確保等により待機児ゼロを達成

「世田谷版ネウボラ」（2016年）

「世田谷区立児童相談所」の職員170名で発足（2020年）

「区立産後ケアセンター」（桜新町）の法制化→母子保健法（2020年）

在宅子育て支援の「子育て広場」36か所（2020年）

1. **世田谷版、教育改革へ**

若林小学校跡地に「教育総合センター」（2021年12月）スタートへ。

区民参加の「総合教育会議」で「学びの質の変革」を教育委員会と熟議。

公設民営のフリースクール「ほっとスクール希望丘」（2019年2月）

不登校特例校を世田谷中学分校として設置。（2022年4月）

いじめから子どもを守る「せたホッと」開設（2013年）

　　コロナ禍でネット配信開始。全小学校・中学校児童生徒にタブレット配布。

1. **若者支援担当課（2013年）から始めた若者支援と仕事・生活支援**

「池ノ上・野毛・希望丘青少年交流センターの開設」

「メルクマールせたがや」（2014年）で、ひきこもり700世帯の相談対応。

「児童養護施設退所者等奨学基金」（2016年開始・募金額1億8千万円）

「三茶おしごとカフェ」（2014年）令和2年度、約2万7千人来館

「ぷらっとほーむ世田谷」（2015年）生活困窮者自立相談支援センター。

コロナ禍で、緊急生活貸付・総合支援・住居確保支援金

1. **同性カップル宣誓書受領証制度の開始（2015年）**

全国に広がる自治体数（現在103自治体）

「多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」（2018年）

平和資料館開設（2015年）と「せたがやの火」（2020年）

1. **コロナ禍と向き合ってきた「世田谷モデル」の展開**

「保健所の増員と組織強化→社会的検査→ワクチン接種」

「ＰＣＲ検査センター（2020年4月）からの検査実績」

「介護施設等を中心とした社会的検査の開始」（2020年10月以降）

「社会的検査の効果と無症状陽性者の分析結果」（2021年3月）

1. **「ないものねだり」から「あるもの探し」へ**

「縦割り」に横串を指すマッチング

「世田谷発、全国での展開」